

人魚

住昔より人魚と号す時々世に觀物場と云ふ物是迄許す有難其真と
 偽を詳しむる事難し原未得難き奇物にして帝其説を傳聞せる
 從は唱ふ非推量状を作す質物乎冷く鬱悒を託託を以て婦女
 童蒙を購者あり抑今般船末の一種の亞那利加洲喝以布蘭士と云ふ
 極南の地より紅毛人東洋に極く發帆の節應帝亞亞屬する時此の海
 中を擣得しと云物是也物産博考の諸先生不説て鑑定を乞ひ疑ひ
 あり更の人魚ありと云う是稀代の珍物江湖上は現る諸人の眼小
 編ん大平の恩澤を浴するの海徳をん其異なりは愛敬ゆあり一着て虚實
 記湯く音官の定定なりん其を後て永く後世の談柄と錢金飲の

山海經曰東南の海中人魚國有
 人魚を出きて其異物志曰人魚長三
 尺餘頂の上小穴あり口中より出ると
 人本草綱目曰人魚と稱する者
 二種あり曰鱈魚曰鮫魚と見へ
 鮫魚ハ小兒魚と云山生魚と訓む
 鮫魚ハ格物論子女鮫唱へ俱は世小
 人魚の類小兒魚博物志曰
 數人ハ數客水人との号又一種
 上客と云者程々の學問異
 説區々あるも人魚ありあり
 世は不老延年長壽の草あり
 あると云ふもの此人魚あり
 相傳て言人魚を食する者
 延命して死を知らば
 小兒ハ眼は見るのま
 しく老瘡癩疹
 を患ふ事あり
 患者も必釋と云り
 老若ハ食せばとも唯
 見るのまれて疫疔を
 根以惡流行病ひ
 を消除し其氣を
 うるむと云人斯能ある
 今即今愛を推ひ
 文加の序寫を賜む
 有益の一端と云ありん
 市中小舟に於て一覽し
 願入先前茶啓有て
 高評を預らば幸甚
 未夏吉丑

